

インフルエンザ予防接種を受ける前にお読みください

予防接種の効果や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることやわからないことがあれば、医師に質問し、十分に理解してから接種を受けてください。予診票は、医師が予防接種の可否を決める大切な情報であるため、正しく記入してください。

インフルエンザはどんな病気？

インフルエンザに感染すると、1～3日後に高熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛等が突然あらわれ、咳、鼻水等の風邪と同じような症状もあらわれます。お子さまではまれに急性脳症を、高齢の方や免疫力の低下している方では肺炎を伴う等、重症になることがあります。

ワクチンの効果

ワクチンには感染を完全に防ぐ効果はありませんが、発病や重症化（肺炎や脳症等の重い合併症があらわれること）を予防する効果があります。また、ワクチンの効果は、接種後約2週間から5か月程度とされています。

予防接種を受けることができない方

- ① 接種当日、明らかに発熱のある方（一般的に、37.5℃以上の場合）
- ② 重篤な急性疾患にかかっている方
- ③ 予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシー（※）を起こしたことが明らかな方
- ④ インフルエンザの定期接種で、接種後2日以内に発熱した方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状がでたことがある方
- ⑤ その他、医師が予防接種を行うことが不適当と判断した方

（※）アナフィラキシーは、じんま疹等の皮膚症状、腹痛や嘔吐等の消化器症状、息苦しさ等の呼吸器症状が急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下（呼びかけに反応しない）を伴う場合を、アナフィラキシーショックと呼びます。

接種を受けるときに注意を要する方

- ① 心臓、腎臓、肝臓、血液疾患、発育障害等の基礎疾患がある方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱した方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状がでたことがある方（インフルエンザ定期接種においては、接種を受けることができません。）
- ③ 過去にけいれんの既往のある方
- ④ 過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
- ⑤ 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器疾患がある方
- ⑥ 接種しようとする接種液の成分によってアレルギーを起こすおそれのある方

他の予防接種を受けている場合の接種間隔

インフルエンザワクチンと他のワクチンとの接種間隔に制限はありません。そのため、前のワクチン接種からの間隔にかかわらず、接種をすることができます。また、新型コロナワクチンとの同時接種は、医師が特に必要と認めた場合に可能です。

接種後の注意事項

- ① 接種後24時間は副反応の出現に注意してください。（特に接種後30分以内）
- ② 接種後は、接種部位を清潔に保ちましょう。接種当日は過激な運動や過度の飲酒は控えましょう。
- ③ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- ④ 接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすらないようにしましょう。

予防接種の副反応

- 比較的多くみられる副反応には接種部位の発赤、腫れ、痛みが挙げられ、接種を受けられた方の10～20%に起こります。また、全身性の反応としては、発熱、頭痛、寒気、倦怠感等が見られ、接種を受けられた方の5～10%に起こります。いずれも通常2～3日で消失します。
- 稀ではありますが、重い副反応としてショック、アナフィラキシー様症状（発疹、じんま疹、発赤、掻痒感、呼吸困難等）が見られることがあります。その他、ギラン・バレー症候群、急性脳症、急性散在性脳脊髄炎、けいれん、肝機能障害、喘息発作、血小板減少性紫斑病等が報告されています。

予防接種健康被害救済制度

接種後に健康被害が生じ、入院治療が必要となったり、その後に障害が残ったりした場合には健康被害救済制度の対象となる場合があります。副反応や予防接種健康被害救済制度について不明な点がありましたら、神戸市保健課（電話：078-322-6788／FAX：078-322-6732）にご相談ください。

詳しくは、市ホームページをご参照ください。



① 詳しくは、市ホームページでご確認ください。

神戸市 高齢者インフルエンザ 予防接種 | 🔍

シニア予防接種コールセンター

平日 8:45～17:30（土日祝除く） 078-777-4349 **FAX** 078-291-5953